英語科「コミュニケーション英語Ⅲ」授業実践紹介

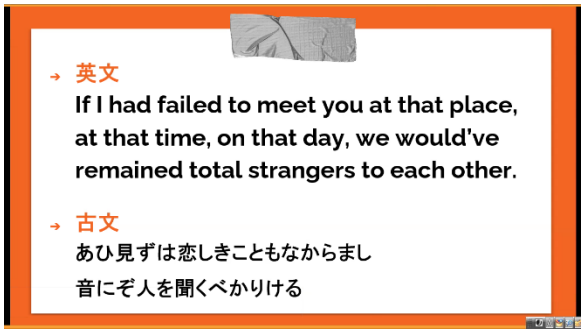
授業者：浮田　圭一郎
学　年：３年
単元名：英語と古文を比較して、互いの文化を理解しよう

単元のねらい（７つのチカラ：自分を理解する力、コミュニケーション力）

①グループワークなどの活動に積極的に取り組み、コミュニケーションを図ろうとする。
②英語を読んで、英語と日本語における「仮のものを想定する」際の思考の違いを知る。
③学習を通して、英語の「仮定法」と古文の「反実仮想」を比較し，共通点・相違点を知る。英語と日本語の文法的特徴を学ぶことを通じて、英語を用いる人々のものの考え方を知る。

単元の流れとパフォーマンス課題

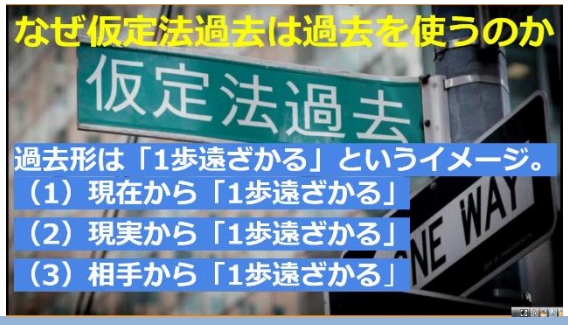
1.（１時間目序盤）
英語の仮定法と古文の反実仮想の違いを知るため、導入として英語の例文と古文の例文をグループでそれぞれ訳してみる。その後、発表をし、教師の解説を聴く。



2.（１時間目中盤）教科書に出てきた仮定法過去の文を振り返る。そして反実仮想を使った古文(万葉集から引用)と仮定法過去を使ったその英訳文とを全員で確認する。

3.（１時間目後半）各グループでワークシートを使って、2 で扱った各例文を品詞ごとに分け、気づきを記入する。その後、内容を発表する。Google ジャムボード使用。

4.（１時間目まとめ）グループの発表を受け、内容や気づきを踏まえての教師の解説を聴く。



パフォーマンス課題の評価

授業の理解度を測る英作文を行う。有名な楽曲（邦楽）の歌詞を見て、仮定法なのかどうか各自が判定し、その歌詞を英作文する。（Google forms を使用する）

①ルーブリックを意識し，１０点以上を取る。

②これまでの授業の内容を踏まえ、現実か非現実かを見極めた上で意味が伝わる英文を書く。

単元を通して身につけてほしいこと

今回の古文と英語による教科横断型授業では、言語学習が単なる機械的な句法や文法の暗記ではなく、理論によって成り立っていることを理解してもらうことを目的としています。古文の「反実仮想」と英語の「仮定法」の共通点や相違点をグループによる対話的な活動を通じて気づき，その違いが指摘できれば合格点です。その上で言語間の違いを超えた普遍的な感情理解まで落とし込み、理解を深めることができれば尚良いです。

仮定法過去を理解したうえで、自分の考えについて英語でまとめ，作文をする力も蓄えていきます。

評価

観点	達成度０	達成度１	達成度２	達成度３
【言語や文化についての知識・理解】 学習した範囲の内容	１点 の 25%以上について、「話すこと[やり取り・発表]」、「書くこと」の知識を身に付けていない。	２点 の 25%以上について、「話すこと[やり取り・発表]」、「書くこと」の知識を身に付けている。	３点 の 50%以上について、「話すこと[やり取り・発表]」、「書くこと」の知識を身に付けている。	４点 の 70%以上の内容について、「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」の知識を身に付けている。
【表現の能力】 述べるべき内容として、表現方法（使用語彙、文法、語法）に留意して自分の意見	１点 を書くことができない。または説明になっていない。表現方法にやや誤りがあり、情報が乏しいなど、よく理解できない。	２点 を書いているが、最小限の情報に留まる。表現方法にやや誤りが見られるが、誤解を生じる大きな誤りではない。	３点 を根拠を含めて書くことができる。ほぼ適切な表現方法で文章を書くことができる。	４点 が根拠を含めて書かれ、情報量が多く、随所に工夫が見られる。適切な表現方法でわかりやすい文章を書くことができる。

①パフォーマンス課題に対する評価（３０％）

②毎授業の振り返りシート＋その他の課題＋小テスト（２０％）

③定期考査による評価（５０％）